

【②見方や考え方-E：その他】

■現実と非現実のすき間

—怖いけど、子どもは妖怪が大好き?!—

夏休み、地方の美術館で水木しげるさん監修の「妖怪大冒険展」のポスターを目にしました。以前に彼の展覧会は拝見したことがあったのですが、戦時中に左腕を失いながらも絵を描き続けた彼の生き様や、「なまけ者になりなさい」というその大らかな人柄にとっても感銘を受けた覚えがあります。そこで、久々に彼の展覧会を見ることにしました。

照明を落とした暗い部屋からは、「怖いよ〜」と、泣いている幼児の声が聞こえてきます。何か起きそうな予感です！

小学生たちは興味津々、「ぬりかべ」や「いったんもめん」など、妖怪の絵や人形に見入っていました。数人の子どもたちを連れた女性が「ゲゲゲの鬼太郎」の生い立ちについて話をしています。「鬼太郎くんは妊娠中に亡くなって埋められたお母さんのお腹から自分で生まれてきたんだよ。」女性の話を真剣に聞く子どもたちの表情を見ていると、それは古くから言い伝えられた民話のようにも聞こえました。

なぜ、子どもたちは妖怪やお化けといったものに興味を持つのでしょうか？ 図工の時間の子どもたちを見ていると、作品に妖怪のようなものが登場することがよくあります。そこで、妖怪たちの誕生の由来を読んでみると、各地方の風習などに関係したものが多く、日常と非日常をつなぐ不思議な世界観を感じました。それぞれの風貌も現実の世界と密接にかかわっています。もう自分の隣に、妖怪は存在しているのではないか?! そんなリアルな魅力があるのです。

私たちは授業で、形や色を介しながら、子どもたちの予想もしない行動や表現に直面し、驚かされることがよくあります。現実を組み替えて新しいものを生み出すことが創造と言うならば、現実と非現実のすき間を埋める魅力的な存在である妖怪たちは、図工の時間とどこかオーバーラップする部分があるように感じてなりません。

ひらた こうすけ
(平田耕介：東京都墨田区立押上小学校教諭)